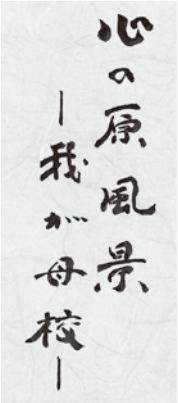

佐渡市立 両津吉井小学校

両津吉井小学校は、現在児童数が57名、6学級の学校です。

平成23年に創立50周年を迎え、教育目標は「伸びゆく子ら」です。昭和37年の創立以来、地域の温かい支援を全面に受けながら、地域とともに半世紀の歴史をしっかりと歩んできました。日ごろより地域の方々から、米作りや野菜作りへの協力、創立記念日の講話等、多くの支援をいただいています。これらの支援が当校の教育活動を膨らませ、「地域の子どもは地域で育てる。」という地域あげての子育てのエネルギーみなぎる場になっています。

4年前から、当校では全校で学校に隣接した「よしいっ子の森」（当校の卒業生で組織する「おやじの会」が管理）でのどんぐり栽培に取り組んでいます。地域の上横山自然公園をつくる会の皆さんの支援を得ながら、森の学習をし、上横山自然公園で、どんぐりの植樹を行っています。

昨年10月に行われた「にいがた緑の百年物語第39回佐渡地方植樹祭」には、「両津吉井小学校創立50周年記念植樹」も行い、式典では6年生が自分たちの取り組みについて発表しました。どんぐりを育てる活動は、子どもたちが自分たちでできるよりよい環境への取り組みになっています。

トキが住みやすい環境は、人も住みやすい環境と言われます。これからも、地域の方々と一緒に佐渡の自然を、環境を守り育てる活動を継続していきたいと思っています。

◆教育委員会学校教育課（両津支所内）☎23―4898

佐渡をジオパークに

ジオパーク、推進日記 ⑳

ブリとジオのおいしい関係

12月は師走。魚へんに師と書いて「ブリ」と読みます。今回は、佐渡市の魚でもあるブリに注目してみましょう。

寒い時期に獲れるので、ブリは寒い所が好きな魚だと思われるかもしれません。しかし、ブリはあたたかい所を好む魚なのです。ブリは回遊魚です。海水温の上昇とともに、餌を求めて北上し、おなかいっぱい餌を食べて過ごします。そして、海水温が下がってくると南下を始めます。この時、冷たい海水を避けて通るので、両津湾に仕掛けられた網にたくさんブリが入るのです。

両津湾に網を仕掛ける理由は、そこがブリの迂回ルートだからでもあるのですが、実は佐渡の地形が大きく関係しています。この時期、佐渡島は強い北西の風の影響を受けます。北西の風は尖閣湾などの美しい景観を作り出しますが、風が強いと網を仕掛けることができません。しかし、両津湾は標高1000mを超す大佐渡山地が風を防ぐことで、一年を通して網を仕掛けることができます。佐渡の大地があるからこそ、おいしいブリを獲ることができるのです。

餌をたくさん食べて脂の乗ったブリはワサビをはじいてしまうほど。佐渡島内はもちろん、全国的に食べられている魚です。特に年越し魚としてブリを好んで食べるのは関西の人たちだそうです。ちなみに新潟ではサケを食べるそう。ではその境界はどこにあるのでしょうか？

年越し魚の境界と言われる場所は、糸魚川ジオパークの中にありました。日本列島を東と西に分ける大断層「糸魚川―静岡構造線」がその境界だといわれています。地質的な境界が、文化の境界にもなっているのです。

さあ、今日の晩ご飯はブリかつ丼で決まり☆

◆教育委員会社会教育課ジオパーク推進室（両津郷土博物館内）☎23―2101